

私たちの手で、持続可能な社会をつくろう！

～小金井市の環境の今と原発問題

2011年3月11日の東日本大震災、そして福島原発事故のあと、私たちはエネルギーの使い方の見直しを迫られることとなりました。

現在、小金井市環境基本計画の見直しがおこなわれています。今回の改訂では、節電や省エネなども含む自治体で取り組むエネルギー政策についても触れられています。『エネルギー』『低炭素なまちづくり』『生物多様性』『持続可能な都市システム』を4つの柱に、環境教育と絆づくりがキーワードとされています。

今回の散歩だより発行にあたり、エネルギーとごみ減量について2008年にみどり三多摩(*)がおこなった自治体環境度調査を参考に、2013年の小金井の状況を調査しました。また、先日開催された『どう考えても原発は高い』講演会や、映画『世界が食べられなくなる日』上映、そして昨年10月に福島と小金井の母子が交流した「こがねい ふくしま つながるプロジェクト」の報告も掲載しています。

これらを参考に、私たちが小金井でなにができるかを考えてみませんか。

3月の市民活動まつりでは、避難者の交流会が開かれます。震災・事故から3年経って、ようやく実現します。社会福祉協議会が近隣市の社協とつながり、広い視点で催されます。3年経っても被災地の復興も避難者への支援も進まず、福島の人たちは原発事故が収束しないまま、困難な状況が忘れ去られていくことを恐れています。当事者の意見を聞きながら、今、必要な支援に取り組むべきだと考えます。

(片山かおる 市議会議員)

*「みどり三多摩」・・・環境・社会的公正・参加民主主義・平和・脱成長などを重視して活動している政治グループ。



報告

市民が企画

～こがねいふくしまつながるプロジェクト

2013年10月、保養と交流を兼ねて2泊3日で福島県郡山市から、おとなと子ども計21名の方々が小金井市を訪れました。この企画の主催者は市内在住の飯田しのぶさん。3.11以降、現地で被災者支援を続けてきた人です。彼女が2年半越しで抱えてきた思いを市民で共有し、実行委員会を立ち上げ、寄付を募り、実現しました。宿泊場所はNPO法人・回帰船保育所。通常の保養とはちょっと雰囲気違ったかもしれませんが、かえってそれが得がたい体験となりました。

一日目は三鷹のジブリ美術館訪問、夜は回帰船保育所の保護者との懇親会。二日目は小金井公園へ散策、その後、萌え木ホールにて「こころと心をつなぐワールドカフェin小金井」と題し、福島の人々と東京、とりわけ小金井市民との交流を行いました。保育所という場所にも助けられ、広い空間に布団を敷き詰め、子どもはのびのびと走り回り、おとなはたくさん語り合いました。健康への心配など深刻度は違いますが、放射能汚染時代を、不安を抱えながら生き抜く者同士であることを実感した貴重な機会となりました。

(前原町・山内美穂)

散歩だより編集部が、 小金井市のエネルギー問題・CO2削減、ごみ減量について先行再調査。 結果はいかに！？

2008年に地域政治グループ「みどり三多摩」が、自治体の環境政策の現状を市民にお知らせし三多摩全体での充実・向上を図るため、自治体環境度調査を実施しました。三多摩の30自治体全てから回答があり、集計結果・ランキングを発表したところ、新聞各紙も武蔵野版・多摩版で大きく取り上げてくれました。

総合政策、森林保全、エネルギー問題・CO2削減、ごみ減量、水環境の保全、企業の実績推進、学校給食の7分野の調査で、総合トップは武蔵野市でした。

小金井市はごみ減量、水環境保全が高得点で4位、特に小金井市の水環境保全は、市民・職員の長年の

取り組みによる雨水浸透柵の普及と議員提案の地下水湧水保全条例があり際立っていました。全体的に課題と感じたのは企業の環境貢献を誘導する取り組みの遅れでした。

私は調査担当だったため、各自治体の担当者や記者さんとのやり取りもあり、熱心な職員や首長の思いが結果に反映されていると感じるケースもあったと記憶しています。

3.11も経て6年近くが経ちました。今度は全国調査(!)の声も出ています。自治体の環境政策、ちゃんと進んでいるのでしょうか。要チェックです。

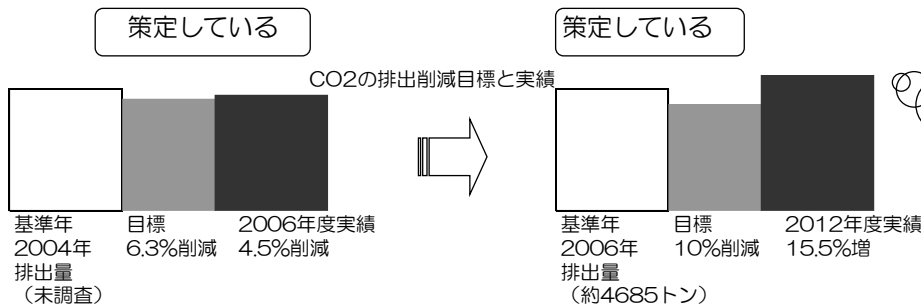
(練町・漢人明子)

2008年調査

2013年調査

地球温暖化対策推進法に基づいた

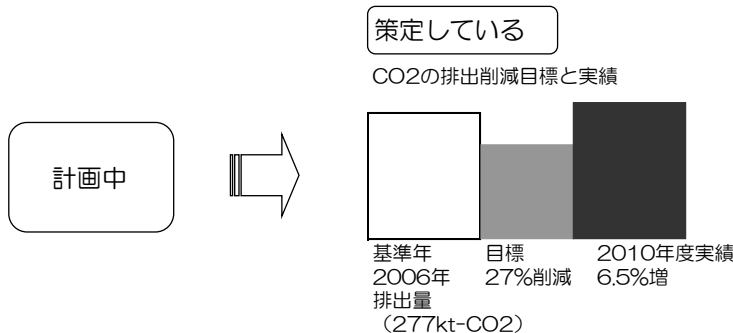
地域公共団体実行計画(市の公共施設に関するもの)



市の施設内の自動販売機は、修理や買い換えのタイミングで全て省エネタイプに変更された。現在は街路灯のLEDの100%普及にむけて、すでに交換が始まっているそう。

地球温暖化対策推進法に基づいた

地域推進計画(民間企業、個人宅などを含む市全体に関するもの)



地球規模の温室効果ガスや市内の大型施設の増加などで削減目標に達するのは難しいのが現状のよう。

再生可能エネルギーの公共施設への導入例

栗山公園健康運動センター
太陽光発電10kW
上水公園運動施設
太陽光発電346kW
風力発電24W

栗山公園健康運動センター 太陽光発電 10kW
上水公園運動施設 太陽光発電 8kW
東小金井開設記念会館マロンホール 4kW
環境環境楽習館 4.3kW
児童発達支援センターざらり 5.39kW
たけとんぼ学童保育所 3.99kW
東小学校 12.6kW
中間処理場事務所棟 10kW
貫井北町地域センター 20kW

発電量は微力ながら保育所や小学校で校庭の時計などに風力発電が使われていたり、中学校でPPS電力が利用され始めている。子どもたちの目にとまる場所で再生可能エネルギーが活用されるのには教育的意図もある。

太陽光発電設備設置への市独自の助成制度

あり（利子補給のみ。担当：まちづくり推進課）
*一般家庭における太陽光発電整備は、
2008年に260/52910軒だった。



あり（2010年度から補助制度開始。担当：環境政策課）
*2010年～12年には278軒が助成金交付を受け、
発電設備を設置した。

太陽熱温水器設置への市独自の助成制度

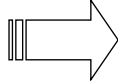
あり（利子補給のみ。担当：まちづくり推進課）



あり（利子補給のみ。担当：まちづくり推進課）

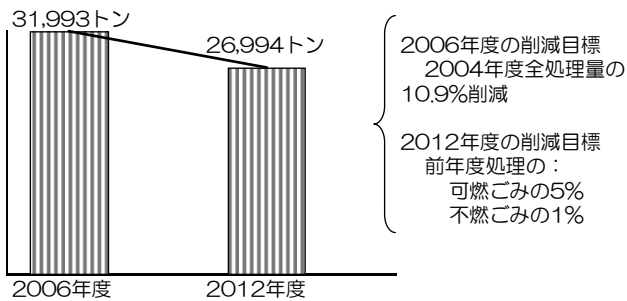
二酸化炭素の排出削減のための小金井市の取り組み

冷暖房温度の適正化。
省エネ型蛍光灯への交換。
省エネタイプの自動販売機への交換。
自動車のエコドライブ促進。

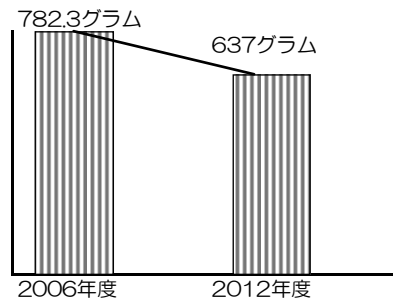


冷暖房温度の適正化。
省エネ型蛍光灯・LED照明（改修時、街路灯）への交換。
省エネタイプの自動販売機への交換。
自動車のエコドライブ促進。
家庭用太陽光発電・コージェネレーションシステムへの補助。
緑の確保。

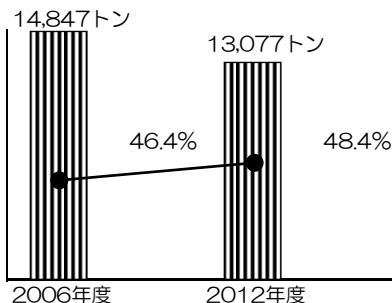
市全体の年間ごみ排出量



市民1人1日あたりの年間ごみ排出量(再資源化したものを含む)

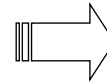


ごみの総資源化率・総資源化量



ごみの分別収集の品目

燃やすごみ、燃やさないごみ
プラスチックごみ、有害ごみ
粗大ごみ、古紙・布
スプレー缶、空き缶
金属、ペットボトル、びん



燃やすごみ、燃やさないごみ
プラスチックごみ、有害ごみ
粗大ごみ、古紙・布
スプレー缶、空き缶
金属、ペットボトル、びん
剪定枝

報告

シンポジウム「どう計算しても原発は高い ～地域から始める原発ゼロ/ミクス」 日常生活にも“さよなら原発”を取り入れる

2013年11月16日、eシフトシンポジウム「どう計算しても原発は高い～地域から始める原発ゼロ/ミクス」は、コスト面からも原発はいらないとした貴重なシンポジウムでした。多摩地域の団体も企画運営に参加、小金井からは「さよなら原発！小金井パレード」が賛同しました。

城南信用金庫理事長の吉原毅さんは、“お金ではなく地域の人々の幸せ”を追求する背景でうまれた信用金庫の立場から、世田谷電力への協力、自然エネルギーに取り組む人を支援しているお話をされ、家庭の電力は太陽光パネルの設置でほぼ賄えるというお話には希望が持てました。

三上元湖西市長は3.11をきっかけに脱原発を主張してきました。6円/kwhとされてきた原子力コストが201円

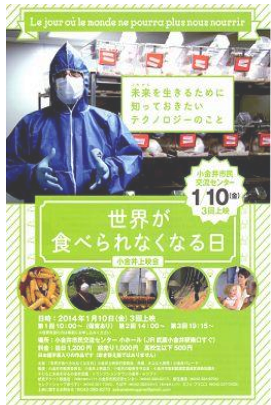
／kwhであると試算したチラシはネットで見えることもできます。

邑上武蔵野市長は、武蔵野市では27の公共施設と700家庭に太陽光パネルを設置し、27～2800キロワットの発電をしている取り組みを紹介。三鷹市や武蔵野市で取り組んでいる市民電力の実践例も紹介されました。

皆さんの話に通じていたのは、「一人ひとりが動くことの大切さ」でした。地元の政治家にいかんに伝えていくのか、どの新聞を読み、どの会社の製品を選ぶのか。日々の暮らしから“さよなら原発”を目指して、“コスト論”も身につけて話せるようになりたいと思いました。

(桜町・坂井えつ子)

「世界が食べられなくなる日」上映会
～発信することの大切さ



2014年1月10日、市民交流センターにて映画「世界が食べられなくなる日」の上映会を開催しました。遺伝子組み換えと原子力をテーマにしたドキュメンタリー作品で、「さよなら原発 小金井パレード」の様子も映し出されています。

人類が生み出したこれらの技術は、現在はいのちや環境を脅かすものになってしまいました。そして、一部の人々が莫大な利益を得るために行っているという構造は共通しているのではないかと思います。

当日は予想を超える方々に観ていただくことができました。食もエネルギーも市場が大規模になり、その背景を知る機会は多くありません。「知ることができてよかった。多くの人に観て欲しい」との感想が嬉しく、次回への取り組みの糧になりました。消費者が変われば社会も変えてゆけるはずです。

(せかたべ実行委員会・S)



これから春先までのイベント予定

- 1/30(木)「報道されない‘ふくしまのママたち’
～私たちは特別じゃない」(公民館講座)
- 2/16(日) 一日だけのCafe ぼちぼち
- 2/24(月)「もっと聞きたい！放射能測定のこと」
(公民館講座)
- 3/2(日) □琴ワークショップ
- 3/8(土) カエルカフェ「マイツリー報告」(ゆずりは)
- 3/8(土) こがねい市民活動まつり
- 3/23(日) 市民自治こがねい総会

☆カエルカフェ

「苦しい思いをしている親たちを応援したい～
「マイツリーペアレンツプログラム」実践の報告～」

◇「マイツリーペアレンツプログラム」とは虐待や不適切な養育をしてしまっている親たちの支援プログラムです。約半年かけて小金井で取り組んだ実践について、高橋亜美さん(児童養護施設退所者のアフターケア相談所ゆずりは)が報告します。

日程:3月8日(土)18:30～
場所:市民交流スペース カエルハウス

一日だけのCafe ぼちぼちXI



2月16日(日)12:00～17:00 萌え木ホールにて

今年もおいしい軽食や飲み物、スローで心地いい空間をお楽しみください。

ライブ 国分寺エクスペリエンス(おちょこ&ゆきを)

トーク 小金井の映画人、映画を語る

「ある精肉店のはなし」瀬瀬あや監督・「SAYAMA
みえない手錠をはずすまで」金聖雄監督が登場!

「市民自治こがねい」は
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい!
市民の想いや考えを
福祉やまちづくりに生かしたい!
人権が尊重され、自治が息づく
小金井市にしたい!

そんな考えの市民が集まり
片山かおるさんを市議会に送り出し
小金井のさまざまな問題を話し合っています。

どなたでも気軽にご参加ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.sijiko.com/>

★会員になってください★

- 会費 1口=3000円/年(できれば2口以上)
- ・賛助会費 1口=1万円/年
 - ・ニュースカンパ 1口=1000円/年
 - ・郵便振替 00130-6-352041

編集後記 今年のカフェぼちぼち「小金井の映画人トーク」では、偶然にも2013年キネマ旬報・文化映画部門2位、3位の2作品の監督さんのお話を同時に聞けるという贅沢な時間になりそう。都知事選が終わってすぐの週末、ぼちぼちな昼下がりをご一緒にいかがですか? (Y)